

## 第3回 鶴岡市SDGs未来都市デジタル化戦略有識者会議 (会議概要)

- 日 時 令和3年9月17日 午前10時00分から
- 会 場 Zoom (オンライン会議)
- 出席委員 天野 隆興 委員、大西 宏昌 委員、大橋 康史 委員  
神尾 文彦 委員、佐藤 理沙 委員、佐藤 涼子 委員  
渡邊 賢一 委員、渡会 俊輔 委員、渡辺 理絵 委員
- 欠席委員 渋谷 真子 委員
- 傍 聴 者 2名
- 次 第 (1) 鶴岡市デジタル化戦略(素案)について  
(2) その他

### 協議事項

<基本的な考え方について>

#### ○座長

今回の資料には大きく2つある。1点目は戦略を作っていく上での基本的な視点と、鶴岡市ならではの何をどう盛り込むのかという戦略全体の話。2点目は具体的に、スケジュールも含めた個別の施策戦略の話。

まず位置づけ、基本的な考え方について意見を伺いたい。

#### ○委員

基本姿勢にはメッセージが内包されていると思うが、誰一人取り残さないというメッセージをもう少し全面に押し出してもよいと思う。

また、具体的な施策として盛り込まれているとは読み取れるが、これまでの行政はどちらかというと申請主義という一面があると思うが、これからは福祉や子育てのサービスなど、プッシュ型の行政サービスに転換を図っていくというような要素も盛り込んでいいと思う。

#### ○委員

デジタル化は手段であるので、鶴岡市全体の方向性の下にデジタル化の手段があるという位置付けが明確になるとよい。

#### ○委員

コロナを機に、都市から地方へ移住、テレワーク、ワーケーションといった流れが進んでいる。鶴岡はユネスコの食文化創造都市や、日本遺産、酒井家入部400年など、非常に豊富な観光資源があるので、そういったものを活用して、観光や、UターンIターンJターンを促進するような、外向けの施策があった方がよいと感じる。

○委員

高齢の方などはやっと最近LINEの使い方に慣れてきたという声が聞こえてくるものの、まだカタカナ語ではわからないところがあるので、わかりやすい言葉にしていく必要があると思う。

○委員

デジタル社会の担い手の育成確保に関連し、高齢者の方に教えるようなことも組み込めるといいと思う。

○委員

今後どう具体化するのかという点が大事と考える。例えば、これらの施策を複数盛り込んだモデル事業を公募し、3ヶ年間で実証し検証してみる、といったことをしてみてもどうか。

○委員

この戦略は鶴岡市ではなく、国や他市町村の戦略とみても違和感がない。どこをとがらせて、何を变えたいというところをもう少し打ち出してもいいのではないかと、という印象がある。

高齢者のデジタル利活用度日本ナンバーワンなど、どこをとがらせたいかを明確にすると、市民にもわかりやすく、鶴岡らしくなるのではないかと印象を受ける。

行政として押さえないといけないところは押さえながら、地域性を出してとがらせるというような発想をすると、住民も実感が湧いてよいかと思う。

<目指す地域社会像と活動スケジュールについて>

○座長

次に戦略の中身について意見を伺いたい。国でもスマートシティ、スーパーシティなどでいろいろなデータを組み合わせて複数の地域の課題を解決するという視点がある。今回示している各プロジェクトでは、一対一で解決を図るような提案をしているが、全体を見渡した時、共通する部分は連携して取り組み、目指すべき地域社会像につなげていけるというアイデアがあればいただきたい。

○委員

このメッセージを市民の皆さんに発信するときは、デジタルによって自分たちの日々の生活がこうなるというような希望が持てるようにしたほうがいいと思う。個々の課題に対するソリューションもそうではあるが、やはり複数の課題に対して、面的にデジタルを適用することによって、生活や地域の経済を変えていくようなメッセージを発することができれば、プラスαの価値を生み出すことができると考える。

例えば、農業の分野で、デジタル技術を活用して、温度や湿度、二酸化炭素などを最適に管理して効率的に農作物を育てる高度施設園芸という考え方があるが、そのエネルギーに鶴岡の地場資源の温泉やバイオマスの発電、クリーンセンターの余熱など

を活用するような、分野をまたいだ取り組みは重要になると思っている。流通や販売についても、デジタル技術を活用して、需要がある時に大量の作物を供給するといったことで付加価値を高めるということも考えられる。こういったことが、農家の方の安定した収入基盤につながるのみならず、鶴岡で農業をしてみようという考えにもつながり、鶴岡の森林資源の活用や耕作放棄地の有効活用にもつながると思っている、医療や観光などでも同様に、こういったストーリーのようなものを提示できると、市民の方が、これからデジタルで変わるのだな、というわくわく感みたいなものを持つことができるのかな、と思う。

#### ○委員

例えばスマート農業へのデータ活用などは、農水省が10年も前からIoT農業の推進を掲げていて、三川町では大手の大規模農家がすでにこういうことをしている。それを強化、加速させるこのプランは、半分期待しながらも、現実可能性が問われるところだと思う。

鳥獣被害対策は本当に喫緊の課題であり、山形県の環境審議会資料によると、今年はクマだったかサルだったかの目撃件数が過去最大になっている。県の指針では、狩猟免許を持っている猟師さんや集落などを鳥獣被害対策の担い手像としているが、集落で対応できない状況になっていて、いわば次のフェーズにいつているという認識になっており、省力化、省人化の必要性は本当に喫緊である。農家が減っているが、鳥獣の数は増えており、全市民体制で取り組むようなフェーズに移っている。このドローンで追い払う取り組みについても、その有用性や、実際に活用する市民層にどこまで浸透するかといった現実可能性は非常に大きな課題だと思う。

また、例えば10ページに地域通貨のことがあるが、これにも現実可能性の課題があり、地域通貨は2000年から2005年に一気に導入されるが、何百という地域通貨のうち7割ぐらいが、2年や3年、あるいは補助金が切れたら終わっている、という評価をしている先生がいる。そういう中で、今回のデジタル推進化で、どうそれを打ち破るかというところに期待している。

#### ○委員

国連のFAOと一緒にナローベースガストロノミーというような活動をやっており、その中で、どう食の循環をやっていくかということは非常に世界的な流れになってきていると思う。鶴岡はユネスコの食文化創造都市でもあるので、鳥獣対策も含めて、この鶴岡という地域で、実際、大地からどんな栄養がとれていて、そこでどのような食の循環があるという一つのモデルを世界に示すのに、デジタルという技術をどう使っていくのか、というのは一つのキーワードではないかと思う。

#### ○座長

これ以外にも委員から、防災活動を通じてコミュニティの再生に貢献していくというようなコメントもあった。取り組みがいろいろなところに波及し、影響するところを分かりやすく打ち出していくことが重要と指摘を受けている。

## <デジタル環境整備について>

### ○座長

次に1個1個のプロジェクトについてコメントを頂きたい。まずは施策1だが、これは鶴岡市総合計画のすべての目標に関わっている。デジタルインフラを構築するという広い話だが、個人情報を含めた市民の情報をきちんと集めることができるか、どう活用していったらいいか、鶴岡市内に閉じていいか、データの地産地消をどう進めるのか、等々について意見を伺いたい。

### ○委員

住民に対してどういうサービスを提供するかということが一番重要だと思う。例えば、バイタルデータなどの健康関係のデータを提出していただくことで、その人にどのような価値を提供できるのか、といったことが重要だと思う。ここではデジタルハブの観点で書いているが、ウェルビーイングといったところと両輪で回していかなければならない施策のように感じる。

### ○委員

データの地産地消とはどういうことを想定しているのか。

### →事務局

行政のデータ活用から始める想定だが、例えば、そこで市民がどういったサービスを受けているか、というものを蓄積することで、プッシュ型通知などの行政のサービスの向上が見込めるかと考えるが、同様のことを地場企業や学術機関でもできるのではないかと考えている。

### →委員

企業や学術機関はどう使うと想定しているのか。

### →事務局

具体的には定まっていないが、例えば鶴岡市では住民1万人程度のデータを継続的に取っている鶴岡みらい健康調査といった活動があるが、そういった公共性が高く、非競争領域のデータは複数の企業や学術機関で共有して使うといった使い方も考えられる。

### →委員

そのような貴重なデータをどう市民に還元されるのか示されると、とてもよいと思う。

### ○座長

データを預けることに抵抗感があることも考えられるが、そのあたりの考えを伺いたい。

## ○委員

そのデジタルのデータの安全性、セキュリティも関連してくると思うが、市民の方は過度にデジタルのデータを危険だと思っている節もあると思う。例えば、家の玄関の鍵について、物理的な鍵と電子的な鍵のどちらが安全かというところ、多分電子的な鍵の方が安全だが、感覚的に物理的な鍵の方がいいと思う部分もある。来年から高校で情報が必修化されるが、やはり皆さんがデジタルに関する知識をつけていくことが必要だと思う。

また、どうデータを集めて、どう使うかというところは幅が広く、見えない部分があるので、先ほど話しがあったように、モデル事業を募集してみてもいいと思うし、データの標準化、フォーマットが定まると活用の幅が増えてくるかと思う。

## ○委員

最近、千葉県のあるエリアで電車やバスを顔認証で乗れる仕組みが導入されたとの事例があった。これは朝日庁舎のセキュリティを顔認証で、とか、市立図書館の貸し出しも顔認証で、とか、もしくは子供の図書館の出入りを親御さんに通知する、民間であれば塾の出欠で使ってもらい利用料を負担する、といったことにもつなげることができる。そのデータと緊急連絡先を紐づけておくと、災害時に避難所に顔認証の機械があれば、安否確認などもできるし、一つのデータを複数で使うことができるかと思う。小さい範囲でデータを集めることを最初にするともあまり使い道がないが、データの使い道を形にすると、意外にエリアとして便利にできるかと思う。ただ、実際に実施しようとする、顔認証のデータには抵抗感ある方もいるだろうし、セキュリティの部分など、いろいろクリアしなければならないことがある。将来的に市内のいろいろなサービスを全部手ぶらで受けられるなど、大きな絵を最初に描いておいてモデルケースを実施すると、データを預けたり活用したりする時にも参考になると思う。

## <空間接続ネットワーク化について>

### ○座長

16 ページにある朝日庁舎のプロジェクトは鶴岡市のデジタル戦略の中の大きな目玉の一つになっている。リアルとフィジカルを両立させ、デジタル化やデータ活用のイメージを持ってもらうというプロジェクトは、全国の中でもあまり事例がない取り組みではないかと思う。

### ○委員

高齢者のみならず、若い方もセキュリティの面に不安がある方がまだまだ多いと私自身は思っている、というメリットがあるという点を最大限に具体化して市民に向けてアピールすることが大事かと思う。

ゴミ出しアプリに関してだが、外国の方がゴミ出しをよく理解できてなく、各地域の係の方が残っていたゴミをさらに分別したりと苦勞をしているという話を最近聞き、ゴミ出しアプリには外国向けの方の対応も必要かな、と感じた。

また、もうすぐ選挙があるが、娘が選挙権を持ち、学校の授業で政治の勉強をしているという話を聞いた。初めての選挙で、ものすごく興味を持っていて、なぜ選挙はいまだに手で投票をし、オンライン投票できないのか、と聞かれたが、うまく答えられなかった。オンライン投票したから投票率が上がるとは限らないが、オンライン投票なら興味を持ってくれるのかな、とも感じたし、もっと具体化してPRすることが、市民がデジタル化に興味を持ってくれることにつながるのではないかと感じた。

#### ○委員

デジタル化を、蒸気機関から電動モーターへの変化に例えた話がある。昔、蒸気機関から電動モーターに変わっても、工場の生産性が上がるまで20年かかった、と、アメリカの歴史学者が言っていた。ただ動力源を蒸気機関から電動モーターに変えるだけではだめで、工場のレイアウトやプロセスも含めて全部変えない限り生産性はあがらない、ということである。これは企業のデジタル化も同じで、ツールをデジタル化してもあまり生産性はあがらない。社員の発想や風土、文化を結構根強く変えないとダメ。私は社内のデジタル化に関わってきたが、こうした見えないところの変革にはかなりエネルギーがかかる。やはり市長のリーダーシップや、市役所のスタッフたちが丁寧に根強くやるといった目に見えないところが大事になる。市民メリットをうたいながら、5年10年とあきらめずにやるのが一番大事と感ずるので、市長や皆さんのリーダーシップに期待したい。

#### ○委員

市民と行政の距離感が遠すぎる気もするので、例えば自治会などを一つの単位として、鶴岡市が精力的にやっている地域ビジョンと絡めながら主体的に関わるものを模索してはどうかと考える。例えば越沢の集落などでは、集落に設置したスピーカーから避難指示などが流れているが、クマが検知されたら自動的に注意喚起が促されるとか、例えば三瀬の集落などでは閉店したスーパーの代わりに、自治会が産直のようなお店をしていて、電話で商品の問い合わせなどを受けているが、それもリアルタイムにスマホで確認できるとか、近い距離間であれば生活の中を感じるかと思った。

#### ○委員

私は自治会の職員をしており、ラインの友達登録を募集しているが、どんなにお知らせしても友達登録してくれる地域住民がいなく、自治会のお知らせもラインで終わらず、結局、電話で知らせたりしている。そのような状態であるので、コミュニティセンターや自治会の職員にも協力してもらい、小さい単位でデジタルに慣れてもらうことも必要かと思う。

### <新事業創発について>

#### ○座長

11 ページの施策2で産業やイノベーションの話を示している。鶴岡市では、デジタルの話の前からかなり実績をあげているところだが、デジタル戦略の中でさらに産

業力を高めるということをもっとやっていくべきだと思ふし、それが鶴岡らしさの象徴的な施策になると思ふが、ここについてコメントを頂きたい。

#### ○委員

鶴岡にはベンチャーが集積しているサンエンスパークがあるが、地場企業との連携が取れていない状況だと思ふ。新しく起業したいと思ふ人に、例えば地場企業とネットワークを作る仕組みがある、農業関係なら農業従事者と連携が取れる、といったメリットを打ち出さなければならないかと思ふ。明らかな起業の意志がある人だけでなく、起業をしようと思ふ裾野を広げる、それを考える場所がある、ということも重要だと思ふ。

例えば、フィンランドには市が運営している起業家向けのフリースペースがある。そこには市の職員がいて起業支援をしてくれたり、ネットワークを自由に使えたり、あるいは実際に起業すると格安のレンタルルームなどが借りられたりする。起業するハードルを下げる仕組みがあるといいのかという気がする。

ただ、フィンランドやデンマークなどは、デジタルの分野で起業する方が多いので、そういうところをプッシュする必要があると思ふが、日本の場合は製造業など、マテリアル的なものがあり、その場合は必ずしもデジタルが最重点ではないので、無理にデジタルと言わなくてもよいかと思ふ。

#### ○委員

この資料がこのまま市民に提示はされないと思ふが、市民に発信する時は、自分の生活がどう変わるか、未来がどうなるか、さらにはそれなら自分もアクションを起こして自分のため、地域のために何かやってみよう、など、そういう具体的なイメージがわくように公表すると、非常に有意義なものになると思ふ。

#### <まとめ>

##### ○座長

全体像としては、基本的な考え方を示しつつ、どこをとがらせるのか、あるいは、市民に対してデジタル化の行方をしっかりメッセージ性を持って伝える、ということを経営的な考え方に盛り込むべきという話が多く委員からあった。

各施策について、特に朝日庁舎は鶴岡市のメインプロジェクトとしてこれから実証実験を含めて進めていくことになり、リアルとデジタルをうまく融合させて鶴岡市のデジタル化を進めることが必要だと思ふが、その際には市民と行政の距離、市民とデジタルの距離をどう縮めていくのかということに委員から提案や助言があった。市民の方々がメリットを受けられる形で、デジタル化をどう進め、どうメッセージを伝えていくよいかは今後の大きな課題だと思ふ。

ベンチャーに関しても、デジタル化、あるいは、データ視点ということではなく、どういう対象に、何を目的にデジタル化を推進するかという、常に目的指向の発想で分野間連携を進めながら推進していく視点も重要だとの委員のコメントもありました。委員の方々からは、施策の全体には賛同いただいたと理解している。

これらをどう進めていくのかは、これからの重要なポイントになると思うので、次回以降に活発な議論をいただきながら進めていきたいと思う。